

[001] 比較社会文化：九州大学大学院比較社会文化
研究科紀要表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/8555>

出版情報：比較社会文化. 1, 1995-04-28. 九州大学大学院比較社会文化研究科
バージョン：
権利関係：

創 刊 の 辞

ここに九州大学大学院比較社会文化研究科の紀要『比較社会文化』創刊号を世に送ります。

本研究科は、九州大学の総意のもとに、日本社会文化専攻と国際社会文化専攻の二つの専攻、十八の講座（基幹講座九、協力講座九）から成る、文理にまたがる学際大学院として、1994年（平成6年）4月に発足した独立研究科であります。

戦後五十年を迎えるわが国では、今、大学改革が各地で進められています。時代の流れを的確に捉え、二十一世紀を射程にいった、時代の要求に即応できる新しい教育研究のスタイルの確立が求められています。本研究科が研究者の養成はもとより、高度専門職業人の養成、外国人留学生の教育、社会人のリフレッシュ教育にまで大学院教育の枠を広げたのも、社会のニーズに積極的に応えるためでもあります。

本研究科は日本並びに世界の社会と文化の総合的理解を目指した教育研究を行います。そのために、文学、芸術、思想、宗教、科学、生活、風俗、政治、法律、経済、産業、環境、動植物、地質、気候など自然環境を背景とする社会と文化を総合し、それらの過去、現在、未来にわたる歴史的变化・変動についての視座を重視するとともに、それらの社会文化を異なる国や異なる地域の間で比較する視座を重視します。

本研究科では、情報化・国際化・地球環境問題の深刻化という三つの視点に集約された時代の流れを体系的に捉え、これら三つの視点から見えてくるさまざまな諸問題を総合的に反映する社会文化を、国、広域的国際地域、国内地域という三つのレベルの地域で比較する視座から教育研究を進めます。なかでも、諸外国との比較において日本の社会文化を探究し、日本との比較において諸外国の社会文化を探究する視座を重視します。このように、本研究科の教育研究の特色を「比較」の重視に置くことが、本研究科の名称に「比較」を冠する所以でもあります。

従来の社会科学や人文科学の多くは、政治、法律、経済、歴史、文学など個別の分野を深めていく方向、いわゆる要素分析的研究で飛躍的な発展をみせてきました。今日求められているのは、こうした個別の成果の上にたって、政治、経済、社会、文化、さらには風土としての自然環境などのさまざまな要素が複合して成り立っている地域の総合的な理解であります。そのためには、多様なレベルでの地域について、人文・社会・自然諸科学の方法を駆使して、その総合的な理解を目指す新しい分野の発展が望まれるところです。

このたび創刊号の発刊にこぎつけました大学院比較社会文化研究科紀要『比較社会文化』は、上記のような教育研究の視座に基づく諸成果の一端を納めたものであります。われわれは、各論文の掲載にあたり、学内外の研究者の協力を得てレフリー制をしき、従来の紀要にありがちな安易なシステムを排除して、高度のレベルの論文掲載に全力を挙げることにしました。

われわれは、本研究科の教育研究の発展のために全力をあげる決意しておりますので、研究者各位の末永きご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

1995年3月

九州大学大学院
比較社会文化研究科長

志 垣 嘉 夫